

3.1 地盤地質の概要

前述の「2. 地形・地質概要」を念頭におき、ボーリングの結果を整理して調査地の地質構成を検討した。

調査地の地質状況の詳細は巻末の「ボーリング柱状図」に示してある。ここではボーリング調査によって得られた地層区分とN値に基づいた地質の特徴を表-3.1.1の地質層序表として示すとともに、地層想定断面図を作成して図-3.1.1～3.1.4に示した。※

※地層想定断面図は添付しない。

本調査地に分布する地層は上位より下記の8層に大きく分けられる。

1. 盛土層(B)

2. 沖積層・砂・粘性土層(Asc)

3. 沖積層・第1砂質土層(As1)

4. 沖積層・礫混じり砂層(Ags)

5. 沖積層・第2砂質土層(As2)
6. 洪積層・第1礫質土層(Dg1)

7. 洪積層・粘性土層(Dc)

8. 洪積層・第2礫質土層(Dg2)

表-3.1.1 地質層序表

地質時代		地層区分		主な土質、地質	主な色調	N値 の 範囲 () 平均値	記 事 の 概 要
現世		盛 土 (Bs)		アスファルト・碎石 礫混じり砂	暗灰 暗褐灰	—	・Br-1、-2孔上部50cm程はアスファルト及び碎石。 ・礫混じり砂質土を主体とする。
第四紀	完新世	沖積層	砂・粘性土層 (Asc)	シルト質砂 砂質シルト シルト混り細砂	暗黄褐 褐灰	1～5 (3.2)	・全般に不均質で砂と粘性土の中間土的特徴を有する。 ・Br-2は砂質シルトで含水やや多い。 ・N値は5以下である。
			第1砂質土層 (As1)	細砂 中砂	褐灰 黄褐 暗黄褐	6～19 (12.5)	・全般に粒径均一な細砂、中砂が主体である。 ・所々にφ2～10mmの円礫も混じる。 ・含水は中位～やや多い。
			礫混じり砂層 (Ags)	礫混じり粗砂 礫混じり中砂 粗砂	褐灰 暗灰 暗青灰	12～50 (30.3)	・全体的に砂の粒子中～粗粒で粒径不均一。 ・礫はφ5～10mmの円礫主体。10～20mmの垂円～垂角礫も混じる。 ・局所的シルト・粘土を混入見られる。 ・全般に含水量は多い。
			第2砂質土層 (As2)	細砂	暗灰 褐 暗青灰	18～49 (31.1)	・全体的に粒径均一な細砂が主体である。 ・全般に混入物が少なく均質様な状態である。 ・所々に少量のシルト分、貝殻細片を混入する。 ・含水量は中位～やや多い。
	更新世	洪積層	第1礫質土層 (Dg1)	砂礫	褐灰	13～50 (45.1)	・全般に礫はφ5～30mmの垂円～垂角礫が主体である。 ・所々にφ50mm程度の礫を混入。最大礫60mm。 ・局部的にφ30～50mmの礫集積も見られる。 ・マトリックスは粘土混じり粗砂。 ・含水量多く、滞水している。孔壁の崩壊著しい。
			粘性土層 (Dc)	砂混じりシルト 礫混じり粘土	赤褐・青灰 黄褐灰	10～12 (11.0)	・Br-1孔では層厚約2mで分布する(下部はシルト質砂)。 ・含水少なく固結状を呈する。 ・Br-2孔では礫混じり粘土状で不均質。Br-3孔では欠層。
			第2礫質土層 (Dg2)	粘土質砂礫 粘土混じり砂礫	暗褐灰 黄褐灰	40～50 (49.4)	・全般に細粒分を混入し、粘土質～粘土混じり砂礫状を呈する。 ・礫は平均φ10～30mmの垂円～垂角礫主体。最大径70mm。 ・礫種は安山岩、玄武岩、流紋岩礫。風化礫も見られる。 ・全体に上位礫質土層に比べ礫量は少ない。

今回実施したボーリング調査結果をもとに地層区分し整理した地質の特徴を表-3.1.2～表-3.1.4に整理し示す。

表-3.1.2 Br-1 地点における地層構成

Br-1			標 高(m)		掘進長(m)		孔内水位GL(m)	
			T.P.+3.88		40.26		-3.55	
標高 KBM.m	層厚 (m)	深度 (GL-m)	地質区分	柱状図	土質区分	色調	記 事	標準貫入試験 N値 0 10 20 30 40 50
3.38	0.50	0.50	盛土層(Bs)		盛土	暗褐灰	・アスファルト・砕石からなる。	
1.08	2.30	2.80	沖積砂・粘性土層 (As1)		シルト質砂	暗黄褐	・砂・シルトからなる中間土。 ・上部シルト分を多く、下部では、砂分優勢。 ・全般に含水量が少ない。	3/35 3 8 9 14 22 12 40
-1.62	2.70	5.50	沖積第1砂質土層 (As1)		中 砂	褐灰 黄褐	・粒径均一。 ・φ5mm程度の円礫が点在。 ・4m付近より含水量大。	3.55
-3.62	2.00	7.50	沖積層		礫混じり砂	褐灰 灰	・全体に中～粗粒で粒径不均一。 ・φ2～10mmの細礫を多く混入。 ・全般に含水量多い。	22
-4.02	0.40	7.90			礫混じり砂質シルト	暗 灰	・含水量中位、固結きみ。φ5～10mm礫点在。	12
-7.82	3.80	11.70			礫混じり粗砂	暗青灰	・φ5～20mmの円～垂角礫を多く混入。 ・礫の含有量にバラツキがある。 ・全体にシルト分を若干混入。 ・含水量多い。	28 30 21 21 36 34
-14.87	7.05	18.75	沖積第2砂質土層 (As2)		細 砂	暗灰 褐灰	・全体に粒径均一な細砂。 ・混入物が少なく、全体に均質一様な状態。 ・含水量は中位。 ・16.70m付近より、褐色味を帯びる。 ・18.50mより礫点在。	18 18 25 45
-26.62	13.75	32.50	洪積層		砂 礫	褐灰	・最大φ50mm。 ・平均φ5～20mmの垂角～亜円礫が主体。 ・マトリックスは粘土混じり粗砂。 ・所々に風化礫を混入、粘土質となる。 ・全般に含水量は多い。 ・28～31m間礫径が小さく、含有量も少ない。	50/16 49 50/21 50/20 46 50/13 50/14 50/21 40 50/21 30 50/12 50/5
-30.22	1.60	34.10			砂混じりシルト	赤褐 青灰	・含水量が少なく、固結状を呈する。 ・33m以深均質。	12
-30.72	0.50	34.60			シルト質中砂	青褐灰	・粒径均一。含水量多い。	10
-36.38	5.66	40.26			粘土質砂礫	暗褐灰	・最大φ70mm。 ・平均φ10～30mm程度の垂角～亜円礫主体である。 ・礫種は安山岩、玄武岩、流紋岩がほとんどである。 ・全体に風化礫を多く含み、粘土分が多くなる。 ・含水量が多い。	50/5 50/8 50/21 50/16 50/15 50/11



表-3.1.3 Br-2 地点における地層構成

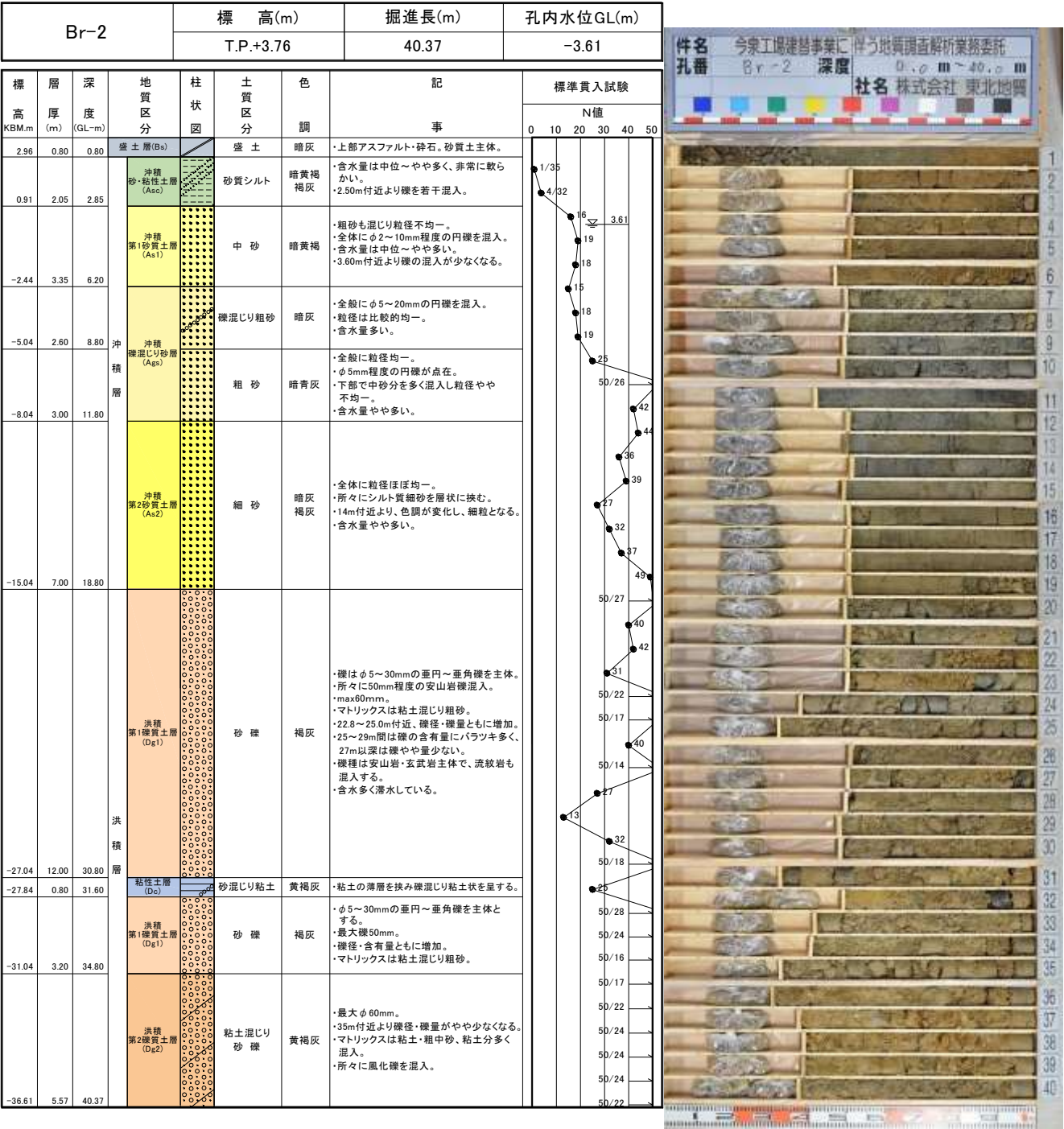


表-3.1.4 Br-3 地点における地層構成

